

原水爆禁止 2024 年世界大会
国際会議 発言ペーパー

「北東アジアの非核兵器地帯・平和地帯化」を大いに語ろう！！

非核の政府を求める京都の会
常任世話人 長谷川長昭

今、ロシアのウクライナ侵略戦争やイスラエルのパレスチナ攻撃などにより、世界的な軍備増強、戦争に備える状況が生じています。しかし、他方では東南アジア諸国連合（ASEAN、10 か国、1967 年設立）の「対話と協力」の平和の枠組みが発展しています。

こういう時こそ、反核平和を目指す市民社会は「平和の維持・発展に向けた明るい展望を語りあうこと」が求められていると思います。

そこで、私は、北東アジアの非核兵器地帯・平和地帯化に向けた議論を、この北東アジア地域、中でも日本で進めることが大切と考えて発言させていただきました。

その内容 1 北東アジアには ASEAN と違って、平和の枠組みがありません。ASEAN は、1976 年に友好協力条約（53 か国、TAC）、1995 年に非核地帯条約締結（10 か国）、そして、東アジアサミット（2005 年 16 か国、EAS）や ASEAN インド太平洋構想（2023 年、A0IP）へと発展しています。かつて北東アジアには「6 か国協議（2003～2007 年）」という枠組みがありました。この 6 か国協議（南・北朝鮮、日本と米・中・ロ）という枠組み復活を求める声を上げること。

その内容 2 北朝鮮の核兵器放棄、北東アジア非核地帯条約の締結、朝鮮戦争の終結を一体のものとして語ること。

その内容 3 昨年国際平和ビューローのショーン・コナー事務局長が「非核兵器地帯は、核兵器廃絶を推進する上で強力な役割を果たす」と語っておられました。核兵器禁止条約（TPNW）の規範力と「核兵器を使えない地帯・非核兵器地帯」を広げることは、核兵器廃絶に向けた大切な条件となること。

その内容 4 北東アジアにおける文化交流—例えば「冬ソナ」から「K-POP」に至る文化交流を積極的に受け止め、一方、正確な歴史認識—日清戦争後に台湾を、日露戦争後に朝鮮半島を占領し、さらに傀儡・満州国を建国させ、重大な苦しみを北東アジアの人々に与えた事実を語りあうことなど市民レベルでの交流を進めること。

その内容 5 「東アジアの平和」が最近大いに語られていますが、ASEAN を中心とした東南アジアと。特別な問題を抱えた北東アジアの非核地帯化・平和地帯化が実現して、はじめて東アジア全体の平和が実現すること。

以上